MIURA　エベレスト　2013　プロジェクト
＜希望の軌跡＞
～Trace of Hope～

プロジェクト記者発表資料

2012 年 10 月 12 日

株式会社 ミウラ・ドルフィンズ　MIURA DOLPHINS CO., LTD.　www.snowdolphins.com
TOKYO OFFICE 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷 3-10-3 Tel.03-3403-2061 Fax.03-3403-2079 / 3-10-3 Sendagaya Shibuya-ku, Tokyo 151-0051 Japan
SAPPORO OFFICE 〒064-0807 札幌市中央区南7条西2丁目1-811 Tel.011-596-8057　Fax.011-596-8067

MIURA エベレスト 2013 プロジェクト について

希望の軌跡

2013 年 5 月、三浦雄一郎は 80 歳で次男・豪太と共に 3 度目のエベレスト登頂を目指します。
70 歳(03 年)と 75 歳(08 年)、過去に 70 歳代で 2 度エベレスト登頂を成し遂げたのは登山史上、三浦雄一郎ただ一人、そのニュースは日本のみならず世界を駆け巡りました。

2008 年、75 歳での登頂後、三浦は次ぎなる目標を 80 歳での中国側からのエベレスト登頂としました。しかし翌 09 年スキー場での事故で骨盤と左大腿骨の付け根を骨折する大怪我を負い、彼の年齢(当時 76 歳)での完全復帰はほぼありえないと思われました。ところがエベレストへ向けた強い意志と山への憧れが驚異的な回復力をもたらし、半年後にはトレーニングを再開したのです。

最初のエベレスト山頂を目指した 60 代のときは検査項目が全て危険信号だったメタボリックシンドロームで標高 500 メートルの近所の山でさえも登れない状態 — それから 5 年を費やしてのトレーニングを経て、当時の最高年齢 70 歳で山頂を極め、さらに 75 歳の挑戦では極度の不整脈で、2 度の心臓手術を行い登頂するも、直前の 8000 メートル地点で次男の豪太が高所性脳浮腫となり緊急下山し命を取り留めました。70 歳、75 歳、80 歳・・・ それぞれの挑戦は己の年齢だけではなく、メタボ、心房細動(不整脈)、そして骨盤骨折という大きな肉体的ハードルを越え、堅剛なるチームワークにて行うものです。

過去 2 回、70 歳代での三浦の挑戦は「究極のアンチエイジング」と言われてきました。
8848 メートル、準宇宙といわれる超高所は肉体年齢が 70 歳近く加齢され、生身の人間が到達できる地球の限界です。
80 歳の三浦の肉体年齢は 150 歳・・・
何故、もう一度、高き頂きを目指すのか・・・
三浦雄一郎のエベレストへ向けての想いはシンプルです、

それは己の限界への問いかけであり、大自然へ対する畏敬の念と誇り。
人類の可能性を 1 ミリでもあげたい — 強い志しが可能性の扉を開くことを信じて。
80 歳の限界が地球最高地点のエベレスト山頂であればこれほど素晴らしいことはない。

奇跡の星、地球に刻む 希望の軌跡

Trace of Hope engraved on our precious Planet

諦めない一歩を照らすのは 希望 の光、

いつか道は 高く遠い夢 へと続いていきます

■　再び高き山頂を目指して

三浦雄一郎は 1964 年にスキーのスピード記録を競うイタリアのキロメータランセに日本人として初参加、世界記録の樹立、そして 1970 年に人類の誰もが想像しなかったエベレスト 8000 メートル地点からのパラシュートを使用したスキー直滑降（記録映画はアカデミー賞受賞）をはじめ、世界初の七大陸最高峰のスキー滑降達成など、登山＆スキーの世界で数々の記録を打ち立ててきました。 60 代になり、年とともに体力・気力の衰えを感じたとき、当時 100 歳を迎えようとしても雪山への熱い思いを抱きスキーを続ける父・敬三（享年 101 歳）、そしてオリンピックで活躍していた息子・豪太に刺激を受け、再び心のスィッチが入り新たな夢と生きがいを求めてのスタートとなりました。

1970 年 37 歳でのエベレスト大滑降後、三浦雄一郎が書き留めた言葉　―

「…本当に生きていることを確かめたかった。腕で雪をたたきヘルメットをかぶった頭を 2 度 3 度氷にぶつけ、再び人間というものに戻った自分を確かめた。そして自分というものが、とても懐かしかった…まだ本当のわれわれが夢に見たエベレストはこれからである。さらに自分自身をよく見つめ、濁った下界の空気やその他すべて、それに染まってしまいそうなわが魂や心を情けなく思いながらも、やはり、ひとつの終わりが新しい何かの始まりでなければならないとするなら、今度こそ心や魂によく磨きをかけ真実なるもの、永遠なるものがくっきりと浮かんでいる、あのヒマラヤの透明な空気のようにあらねばならない…
さて、その心のエベレストとは何であったのか。私をあの死の世界からつれもどして、人の世に人間としてもどしてくれたものの意志は何であったか。私は新しい人生の巡礼者として、それを探し求めるために、“残り”の人生をはるかなるものに向けて歩みつづけねばなるまい。」

そして 80 歳になる三浦雄一郎のエベレスト遠征は若き日の想いを胸に秘め、
母なる大地の女神＜チョモランマ＞への巡礼の旅でもあります。

「私たち親子の高所と登攀過程における生理データが人類の可能性を広げ、高齢化社会における抗加齢の指針となること、そしてエベレスト山頂へむけて刻む　一歩づつが、今、私たちが必要としている自然との共生と明日への「希望」へと繋がることを願います。」　　三浦雄一郎

■　アンチエイジング・プログラム

エベレスト山頂、標高 8848 メートルでは酸素濃度が平地の 3 分の1となり、人間の有酸素能力が標高とともに低下する値を体力年齢に置き換えた場合、80 歳の三浦雄一郎の体力年齢は 150 歳となります。（登山運動生理学、鹿屋体育大学、山本正嘉教授）。この推定年齢は世界最高齢の 122 歳で長寿を全うしたフランスのジャンヌ・カルマンさんの実年齢をはるかに超えた状態で登山活動をすることであり、数字のうえでは 100 歳の若返り(アンチエイジング)を目指さなければ、8000 メートル峰の超高所での活動は難しく、さらに三浦雄一郎は高齢での骨折からのリカバリー、心房細動・不整脈と向き合っての挑戦となります。

自らがトップアスリートであり米国・ユタ大学でスポーツ生理学を専攻し、順天堂大学院で加齢制御医学（ｱﾝﾁｴｲｼﾞﾝｸﾞ）の博士号を今年取得した三浦豪太が、鹿屋体育大学、順天堂大学、広島大学をはじめ各ドクターチームと連携して、父・三浦雄一郎の体力向上、健康研究モニターを行います。

以下が現在続けられている主な研究内容です；

低酸素環境下における遺伝子発現について

「低酸素下における遺伝子発現」の研究は順天堂大学加齢制御医学、白澤卓二教授と共に 08 年ミウラチョモランマプロジェクトと同時に始まった研究です。三浦雄一郎を含めたエベレストに向かう 4 名の 8000 メートル峰登頂経験被験者と高所経験のない被験者が低酸素室に入る前後で白血球の遺伝子がどう変化するかというものでした。

この中で三浦豪太らが注目したのがHO－1（ヘムオキゲナーゼ）という赤血球を分解して、血管拡張や抗酸化作用を促す酵素です。

HO-1 は高所において、高所特有の酸化作用から生体を守る抗酸化作用がある事、酸素をより取り込みやすいように血管拡張作用がある事等、重要な役割を担っています。これが高所登山家には通常の人の6倍以上も含まれていました。これにより、ヘムオキゲナーゼが高所では生体を防御するのではないかと推測され、論文［Heme Oxygenase-1 is constitutively up-regulated in top alpinist」として、2011 年、米国の科学雑誌 BBRC に掲載されました。

2013 年に向けて新たに注目しているのが、細胞の核の中にある染色体の末端部分の「テロメア」と呼ばれている DNA の配列です。細胞は分裂を起こす際に、細胞の核の中にある染色体が螺旋構造をほどいて2つに分かれ遺伝子情報のコピーを行います。しかし、染色体の末端部分だけ、どうしてもコピーしきれな

い箇所が生じます。テロメアはその末端にて同じ DNA コードが繰り返し続けられることによって、染色体の末端部分を保護すると考えられています。しかし細胞分裂を繰り返すと少しずつ短くなり、完全に無くなると、細胞分裂をやめ、細胞老化を起こし機能を停止いたします。そのためテロメアは寿命の重要なバイオマーカーであり細胞の回数券と呼ばれています。

現在、三浦豪太の研究グループは**テロメアと高所の関係**に注目して、80歳の三浦雄一郎や豪太本人のエベレストに登る過程でテロメアの変化をモニターし、高所、酸素と老化の関係を調べます。

なぜ長寿村といわれている村が世界では1000m～2000mの標高に存在するのか、**なぜ**高度順化には個人差があるのか、また人により加齢速度が**なぜ**これほどまで違うのか。

そして、三浦雄一郎がエベレストの頂上を人類史上最高齢である80歳で目指すことが如何なる意義があるのか、この最先端の研究にてアンチエイジングのヒントを探っていきます。

■ MIURA エベレスト 2013 プロジェクト 全体スケジュール

緑文字 海外遠征

2008 年 5 月 26 日	75 歳と 227 日にて 2 度目のエベレスト登頂
2009 年 2 月	札幌テイネスキー場にて事故、骨盤と大腿骨付根を 4 箇所骨折。 全治6か月とされる。

＊＊＊＊＊

2011年 9 月 ～	メディカルチェック、 体力測定、屋久島トレーニング
11 月	ヒマラヤ メラピーク （6400 メートル） 遠征 登頂 ※ 高所テスト、スキートレーニング
2012年 1 月 ～	国内にて スキー ＆ 低酸素室トレーニング
4 月 ～	カナダ ヘリスキーツアー
5 月 ～	ヒマラヤ・トレッキング
7 月 ～	国内にて トレーニング（羊蹄山、剱岳、＆低酸素室）
10 月	**＜三浦雄一郎 80 歳記念イベント＞** ヒマラヤ ロブジェ東峰（6119 メートル） 遠征 ※ 高所順化、用具点検、体調チェック、登攀トレーニング
12 月 ～	国内にてスキー ＆ 低酸素室トレーニング
2013 年 2 月	**＜プロジェクトオフィシャル・サイトスタート＞**
3 月	**＜プロジェクト 壮行会＞ ※ 3 月下旬出発予定**
4 月 ～	6 月初旬 MIURA エベレスト 2013 プロジェクト 本番 ※山頂アタックは 5 月中旬予定

■ 2012年 秋のヒマラヤ遠征トレーニングについて

（2012 年 10 月 17 日 ～ 11 月 10 日）

来年（2013 年）のエベレスト本番に向けての最終高所トレーニングを 10 月 17 日～11 月 10 日の間、ヒマラヤのロブジェ東峰（6119 メートル）にて、下記の内容を含めたトレーニングと事前調整を行います。

① 高所における三浦雄一郎の健康状態をチェック
② クライミング技術の向上
③ 本番使用の用具テスト （ウエア、登攀具、酸素ボンベ＆マスク、通信機器等）
④ メンバー構成の確認 ＆ 現地エージェントとのスケジュール＆申請等の確認

今回、ロブジェ東峰を選んだのはこれら目的に加えて、クライミング技術を要する山であると同時に本番に向けて 80 歳の三浦雄一郎に疲労が残らない程度の負荷となる 6000 メートル級の山であるからです。エベレストへ向けてのトレーニングとして多くの登山家たちにも登られている山でもあり、三浦隊にとっては初登攀となります。

ロブジェ東峰遠征メンバー： 三浦雄一郎、三浦豪太、五十嵐和哉、三戸呂拓也、
貫田宗男、大城和恵

ロブジェ東峰　遠征スケジュール

10 月 17 日	水	日本出発
10 月 18 日	木	カトマンズ
10 月 19 日	金	カトマンズ/ルクラ(2,840m)/パグディン(2,610m)
10 月 20 日	土	パグディン/ナムチェ・バザール（3,440m）
10 月 21 日	日	ナムチェ・バザール
10 月 22 日	月	ナムチェ・バザール/ギャンズマ（3,550m）
10 月 23 日	火	ギャンズマ/ポルツェ（3,810m）
10 月 24 日	水	ポルツェ/ディンボチェ(4,410m)
10 月 25 日	木	ディンボチェ
10 月 26 日	金	ディンボチェ/ロブチェ(4,910m)
10 月 27 日	土	ロブチェ/カラパタール（5,550m）/ゴラクシェップ（5,140m）
10 月 28 日	日	ゴラクシェップ/ロブチェ BC（4,950m）
10 月 29 日	月	ロブチェ BC
10 月 30 日	火	ロブチェ BC/High Camp(5,800m)
10 月 31 日	水	High Camp/ロブチェ東峰(6,119m)/ロブチェ BC
11 月 1 日	木	ロブジェ BC（予備日）
11 月 2 日	金	ロブジェ BC（予備日）
11 月 3 日	土	ロブジェ BC（予備日）
11 月 4 日	日	ロブジェ BC/デボチェ（3,820m）
11 月 5 日	月	デボチェ/ナムチェ・バザール
11 月 6 日	火	ナムチェ・バザール/ルクラ
11 月 7 日	水	ルクラ/カトマンズ
11 月 8 日	木	カトマンズ（フライト予備日）
11 月 9 日	金	カトマンズ/バンコク/
11 月 10 日	土	/成田

※　ロブジェ登頂後、アイランドピーク（6189 ﾒｰﾄﾙ）登頂も検討しています。

■ エベレスト 2013 年遠征本番について （2013 年 3 月下旬 ～ 6 月上旬）

過去 2 回の三浦雄一郎のエベレスト登頂はいずれもネパール側からでした。次回は北側となる中国（チョモランマ）ルートを予定しておりますが、来春の入域が不可能になった場合はネパールからのエベレストノーマルルートを検討いたします。スケジュールは 3 月下旬に日本を出発し、現地での高度順応を経て 5 月中旬の山頂アタックを目指します。

■ エベレスト 2013 遠征隊 メンバーリスト

アタック隊（登頂）メンバー （年齢・2012 年 10 月現在）

三浦雄一郎 （80 歳） 遠征隊・隊長
村口徳行 （56 歳） 登攀リーダー ロジスティックス、映像記録 担当
三浦豪太 （43 歳） 遠征隊・副隊長 生理モニター、医療＆通信 担当

アタック隊サポートメンバー

五十嵐和哉 遠征隊マネージャー 記録、食糧、会計、装備 担当
三戸呂拓也 登攀サポート、 記録、食糧、装備 担当

ベースキャンプ・サポートメンバー

三浦雄大 通信・気象 コミュニケーション 担当
大城和恵（DR） チームドクター 医療 担当
貫田宗男 遠征ロジスティックス、現地リレーション 担当

ネパールからの現地サポートメンバー（18 名予定）

サーダー（ペンバ・ギャルゼン）、登攀シェルパ、クック＆キッチン

■ 主なメンバー プロフィール

三浦雄一郎 みうら・ゆういちろう **（80 歳）**

1932 年 青森市生まれ。北海道大学獣医学部卒業。64 年スキーのスピード競技であるイタリア・キロメーターランセに日本人として初めて参加、当時の世界記録樹立。66 年、富士山直滑降。70 年エベレスト・8000 ㍍世界最高地点スキー滑降を成し遂げ、その記録映画はアカデミー賞を受賞。85 年世界七大陸最高峰のスキー滑降を人類初、完全達成。2003 年 5 月、次男の豪太とともにエベレスト（8848 ㍍）登頂。当時の世界最高年齢登頂（70 歳）と初の日本人親子 同時登頂の記録を樹立。08 年 75 歳にして 2 度目のエベレスト登頂を果たす。アドベンチャー・スキーヤーとしてだけではなく、全国に 1 万人以上の生徒がいる広域通信制高校、クラーク記念国際高等学校の校長でもある。
記録映画、写真集、著書多数

三浦豪太 みうら・ごうた **（43 歳）**

1969 年 神奈川県鎌倉市生まれ。家族とともにアフリカ、キリマンジャロを最年少（11 歳）登頂。91 年よりフリースタイルスキー、モーグル競技を始め、以来 10 年にわたって全日本タイトル獲得や国際大会で活躍。リレハンメル（94）、長野（98）冬季五輪代表選手として日本モーグル界のリーダー的存在となる。米国ユタ大学スポーツ生理学部卒業後、父、三浦雄一郎のエベレスト遠征をサポートし、エベレストを含む 8000 ㍍峰 3 座に登頂。（チョーオーユ、シシャパンマ）。ミウラ・ドルフィンズ低酸素室トレーニングシステム開発研究所長、低酸素下においての遺伝子発現・抑制の研究(専攻・加齢制御医学 アンチエイジング)を行い、また子供から高齢者までの幅広い年齢層やアスリート向けのトレーニング及びアウトドアプログラムを国内外で数多く手がけている。 医学博士（順天堂大学大学院医学部・加制御講座）、同大学非常勤助教授、（社）アンチエイジングリーダー養成機構・専務理事、〔財〕全日本スキー連盟指導員

村口徳行 むらぐち・のりゆき **（56 歳）**

1956 年 東京都生まれ。日大山岳部で本格的な登山を始める。NHK ｽﾍﾟｼｬﾙ、TBS 新世界紀行、テレビ朝日ﾈｲﾁｬﾘﾝｸﾞｽﾍﾟｼｬﾙなどで、ヒマラヤをはじめとする高峰登山を 30 回以上も撮影してきた世界屈指の高所カメラマン。04 年当時の日本人最多登頂記録となる 4 度目のエベレスト登頂及びローツェ登頂の実績で「第 54 回日本スポーツ競技団体別最優秀賞」を受賞。03 年＆08 年ともに三浦隊の登攀隊長＆映像カメラマンを務める。2012 年に女性のエベレスト 世界最高齢登頂記録となる渡辺玉枝さん（73 歳）とともに、自身の持つ日本人最多登頂記録を更新し、7 度目の登頂を果たす。

大城和恵 おおしろ・かずえ **チームドクター**

1967 年 長野県生まれ。医学生の時から北アルプスに通う。大学病院勤務を経て、02 年札幌へ移転。心臓血管センター北海道大野病院に勤務。10 年登山者外来を開設。同年、英国にて国際山岳医 UK Diploma in Mountain Medicine(UIAA（国際山岳連盟）/ ICAR（国際山岳救助協議会）/ ISMM(国際登山医学会）認定）日本人初の資格を取得。11 年より全国初の取り組みである北海道警察山岳遭難救助アドバイザリー医師として救急現場への医療導入を実現。「山岳医療情報」 www.sangakui.jp を発信し国際基準を公開、日本山岳協会医科学委員、日本登山医学会山岳ファーストエイド委員長・同学会認定山岳医実行委員兼講師兼判定委員に就任。山岳活動における安全と実践的医療の普及に取り組んでいる。

■ プロジェクト スポンサー リスト

（2012 年 10 月時点 順不同）

Project Main Sponsor 株式会社 明治

日野自動車 株式会社

サントリー

株式会社東芝

三菱 UFJ ニコス株式会社

クラーク記念国際高等学校

Official Web Sponsor KDDI 株式会社

Official Supplier ザ・ノースフェイス （株式会社ゴールドウイン）

セイコーウオッチ株式会社

株式会社シー・アイ・シー

株式会社 LIXIL グループ

スペシャルサポーター ＆ 協力企業：

株式会社 K2 ジャパン、公大株式会社、株式会社三信商会、公益財団法人赤枝医学研究財団、
株式会社グローバルユースビューロー、アチーブメント株式会社、HKR International LTD.、
株式会社東京映像社

三浦雄一郎エベレスト応援基金にご寄附いただきました皆様

■ WEB 配信 & 募金活動について （Just Giving）

三浦隊の登攀活動をリアルタイムで世界へ発信する為、03 年＆08 年に引き続きオフィシャルサイトを開設いたします。遠征本番中の状況（日記、気象、生理モニター）を現地より衛星回線にて繋いでいきます。

（2012 年 10 月 12 日時点では仮オープンとなります）

MURA エベレスト2013 プロジェクト オフィシャルサイト Supported by KDDI

アドレス www.miura-everest2013.com

また、今回の遠征は広く一般からの支援をお願いする為に「三浦雄一郎エベレスト応援基金」を設立いたしました。WEB を通じて募金活動を行う＜Just Giving＞のサイトからもご支援金を募っておりますので、是非一人でも多くの方に応援いただければ幸いです。

Just Giving 三浦雄一郎エベレスト応援サイトはこちらとなります http://justgiving.jp/c/8459

プレスの皆様へ

ご使用できる写真データを上記オフィシャルサイトの
フォトギャラリーへ入れてありますのでよろしくお願いいたします。
またご使用される場合はご一報下さい
連絡先 info@snowdolphins.com

＝ この件に関するお問い合わせ ＝

㈱ ミウラ・ドルフィンズ 三浦恵美里、 木村大八郎
TEL 03－3403－2061 Email info@snowdolphins.com